

意外と知らない小児の視力低下

●企画にあたって

「小児の診療」って、みなさんお得意でしょうか？ 小児の患者さんは、なかなか診察に協力的ではないですし、視力を測ろうにも相手が乳児だと視力検査もできません。「見えにくいのか？」と尋ねても、初対面の私に心を開いて「見えにくいです」と言ってくれることは稀で、たいていは「……」です。親御さんも優柔不断なわが子を見てイライラし始めますし、周りにいるコメディカルも、私が困惑しているのを察してかソワソワし始めて、ぬいぐるみを取り出して、「アンパンマンいるよ〜！」とか、この子がアンパンマン好きなのかどうなのかもわからないのに、診察する前からカオスなのが臨床現場の実情ではないでしょうか？ ちなみに私は、アンパンマンよりもラムちゃんのフィギュアのほうが好きです！

話が脱線してしまいましたが、「もうちょっと大きくなって、視力を測れるようになったら、また来てください」みたいなことを言ってしまう、とりあえず問題を先送りするだけの診察になってしまうことも多々あります。

しかし、ちょっと待ってください！ それでうまくやり過ごせることもあるとは思いますが、一方で、大きな疾患を見落としてしまうこともあるのです。そこで、今回は「意外と知らない小児の視力低下」という特集を企画してみました。昔、テレビのホラー番組で「あなたの知らない世界」という番組がありましたが、決して読者の不安や恐怖心を煽ることが目的ではありません。一般クリニックの先生方やこれから専門医試験を受験される若手の先生方を対象に、ぜひ知ってほしい小児眼科の診療のポイントや見逃してはいけない重要事項、そして最近のトピックをまとめたコンテンツができないか、柏井眼科医院の柏井真理子先生によるご監修のもと、小児眼科の最前線でご活躍されておられる先生方に各パートを執筆していただきました。私もイチから小児眼科を勉強させていただきたいと思っています。本特集を読んでもいただければ、視力低下を主訴とした小児の患者さんがみなさんのクリニックに来られても、自信を持って診療ができるようになると思います。

稲谷 大

福井大学医学部眼科学教室